



1. マーケット・レート

			8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	4.0750	4.0560	4.0280	4.0720	4.1230	+0.0510
	BRL/JPY	Spot	26.17	26.20	26.47	26.14	25.58	-0.56
	EUR/USD	Spot	1.1079	1.1101	1.1086	1.1082	1.1143	+0.0061
	USD/JPY	Spot	106.63	106.24	106.61	106.43	105.39	-1.04
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	5.081	5.195	5.291	5.281	5.305	0.023
	Future	1Year(p.a.)	5.354	5.330	5.260	5.262	5.309	0.047
	On-shore	6MTH(p.a.)	2.631	2.665	2.736	2.700	2.788	+0.088
	USD	1Year(p.a.)	2.402	2.422	2.468	2.496	2.556	+0.060
株式	Bovespa指數		99,468.70	99,222.30	101,201.90	100,011.30	97,667.50	-2,343.80
CDS	CDS Brazil 5y		138.31	139.32	136.90	136.90	139.06	+2.17
商品	CRB指數		170.777	170.895	170.909	170.322	168.610	-1.711

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデックスです。実際のレート提示は弊社担当アカウントオフィサーまでお問い合わせ下さい。

2.週間市況、トピックス

- 今週は不安定なアルゼンチン情勢や米中貿易摩擦の激化を背景にレアルは下落。
- 前週末、不安定なアルゼンチン情勢を踏まえて大手格付会社が既に投機的水準にあった同国格付の格下げを決定したほか、同国財務相が経済の混乱を理由に突如辞任。19日(月)のレアルはアルゼンチンの信用不安を背景に、3.9990で寄り付いた直後に週間高値となる3.9920を付けたが、その後は終日軟調に推移した。20日(火)に材料を欠くなか方向感なく推移した後、21日(水)は米トランプ大統領が中国と恐らく取引を行うと発言したことでレアルは小幅反発。なおこの日ブラジル中銀は2009年以来の外貨準備活用による米ドル売り介入を実施したが、為替相場への影響は限定的だった。22日(木)は米国のPMI製造業指数が2009年9月ぶりに好不況の分水嶺となる50を下回ったほか、米金融当局者3人による追加利下げに対する消極的な発言により米伯金利差縮小が意識され、レアルは再び下落に転じた。23日(金)はジャクソンホール会議における米パウエルFRB議長のハト派的な発言や、米中間での報復関税措置の応酬を受けてレアルは大幅に続落し、2018年9月以来ぶりに4.1000台を下回り週間安値となる4.1290をマーク。結局4.1230で越週した。
- 19日(月)発表のブラジル中銀によるアナリスト予想集計では、経済成長率予想について2019年が0.82%から0.83%に、2020年も2.10%から2.20%へと揃って上方修正された。インフレ率予想は2019年は3.76%から3.71%に下方修正された一方、2020年は3.90%で据え置かれた。年末の為替レートについては2019年が3.75から3.78に、2020年は3.80、3.81に下方修正された。
- 23日(金)、米パウエルFRB議長がジャクソンホール会議において米経済は望ましい状況にあるものの「著しいリスク」に直面しているとの認識を示したことを受け、市場では9月FOMCにおける追加利下げに対する見方が一段と強まった。
- また同日、中国が合計750億ドル相当の米国製品に追加関税を課すと発表したことを受け、米トランプ大統領が既に発動している2,500億ドル相当の中国製品に対して現行の25%から30%に関税を引き上げると表明した。

3.今週のチャート&ハイライト



ブラジル政府が国営企業9社を民営化する方針を発表

21日(水)、ブラジル政府は財政赤字削減のため郵便局など国営企業9社を民営化すると発表。当初、同日発表される民営化の対象企業は17社に上るとみられていたが、結果として9社にとどまった。またボルソナロ大統領は郵便局の民営化には憲法改正が必要であり民営化プロセスには長い時間がかかると発言、今後時間をかけて審議されると予想される。市場は既に年金改革法案の成立を相当程度織り込んでおり、公営企業の民営化のほか税制改革やインフラ投資などの帰趨に関心が移っている。足許、主に国外のレアル安圧力が優勢であるなか、こうした一連の政策審議の進展がレアルを如何にサポートするか注目したい。



4.来週の為替市場注目点

予想 ドル・レアル相場レンジ：3.95—4.20

来週も、国外のレアル安圧力が優勢ななか、レアルは軟調に推移する展開を予想。

今週レアルを11ヶ月ぶりに4.1台まで下落させた要因は、①不安定なアルゼンチン情勢、②報復関税の応酬による米中貿易戦争激化、そして③グローバルスローダウンに対する不安の高まりが指摘できる。特に③について、既に中国や欧州などの減速が明らかになりつつあるなかで、米国においても約10年ぶりにPMI製造業指数が50を割込んだほか、パウエルFRB議長もジャクソンホール会議において同国経済が「著しいリスク」に直面しているとの認識を示すなど、先行きには暗雲がたちこめている。

加えて米伯の金融政策格差や英国によるハードブレグジット懸念、更には中東や香港情勢など地政学リスクもレアルの重しとなる。なお、金融政策の行方に關して、市場は次回9月FOMCにおける25bpsの利下げ確率を約83%と予想しているのに対して、同日に開催されるCOPOMでは50bpsの利下げが約90%の確率で織り込まれている。

他方、今週はブラジルの9公社に関する民営化方針が明らかにされたが、こうしたブラジル経済、或いは財政を好転させるための一連の政策が進展すれば、レアルをサポートしよう。但し短期的にこれらが具体化する公算は小さく、一方で上記に指摘したレアル安要因はいずれも長期化するリスクがある。したがって、レアルは直近1年で付けた最安値水準である4.2付近を下限に、しばらくは軟調推移を続けるものと予想する。

5.本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
ブラジル	FGV CPI IPC-S	0.24%	0.22%	0.26%
ブラジル	登録雇用創出合計	45000.00	43820.00	48436.00
米	新築住宅販売件数	647k	635k	728k
米	新築住宅販売件数(前月比)	0.2%	-12.8%	20.9%

6.来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
ブラジル	8/26	貿易収支(週次)	Aug	--	\$701m
米	8/26	耐久財受注(前月比)	Jul	1.00%	1.90%
ブラジル	8/26	経常収支	Jul	-\$5950m	-\$2914m
ブラジル	8/26	海外直接投資	Jul	\$6900m	\$2190m
ブラジル	8/28	融資残高	Jul	--	3296b
ブラジル	8/29	FGVインフレIGPM(前年比)	Aug	5.10%	6.39%
ブラジル	8/29	FGVインフレIGPM(前月比)	Aug	-0.60%	0.40%
ブラジル	8/29	GDP(前期比)	2Q	0.20%	-0.20%
ブラジル	8/29	GDP(前年比)	2Q	0.80%	0.50%
米	8/29	GDP(年率/前期比)	2Q	2.00%	2.10%
米	8/29	個人消費	2Q	4.30%	4.30%
米	8/29	コアPCE(前期比)	2Q	1.80%	1.80%
ブラジル	8/30	全国失業率	Jul	11.90%	12.00%
ブラジル	8/30	基礎的財政収支	Jul	-4.0b	-12.7b
米	8/30	ミシガン大学消費者マインド	Aug	92.30	92.10

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の領布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。